

# 正味の測定値は最大50cpm

## 福島製の放射線量

### 除染基準10万cpmを遥かに下回る

需要家の問題では、原因に比較的近い地域の砕石を使つたコンクリートから高い放射線量が検出された問題で、県産の建築資材への不安心理が広がっている。県では今回の調査結果から、「住宅への

利用に際して安全上問題はないと考えられる」と報告を行っている。検査は昨年11月10日、12月7日、県内7方面（県北、県中、県南、会津、南会津、相双、いわき）の計31工場で事故後伐採材285本、屋外天乾材259本を対象にGM計測数管式サーベイメータを使って実施した。各測定場所においてバックグラウンド値を測定した後、1試験体で4カ所計測し平均値

福島県は、福島第一原発の事故後に伐採された丸太から製材された杉製材品と、事故後に屋外で天然乾燥された杉製材品の放射線量を県内各地で調査した結果、いずれの材表面からもバックグラウンド値（製材品以外からの放射線の測定値）を大きく超える値は検出されなかったと発表した。バックグラウンド値を差し引いた正味の測定値は最大50cpmと原木等の除染基準である10万cpmをはるかに下回った。

単位：cpm

材の種類	材表面測定値 (A)			バックグラウンド値 (B)			正味の測定値 (A-B)
	最小値	平均値	最大値	最小値	平均値	最大値	最大値
事故後伐採材	50	91	189	55	98	190	32
屋外天乾材	47	93	176	55	102	190	50

を材表面測定値として算出。事故後伐採材は材表面測定値の平均値が91cpm、バックグラウンド値の平均値が98cpm、屋外天乾材は材表面測定値の平均値が93cpm、バックグラウンド値の平均値が102cpmで正味の測定値は最大値50cpmだった（別表参照）。

また、3月11日以前から屋外で保管していた丸太と製材品について、樹皮剥離（丸太）やプレーナーによる表面切削（製材品）で放射線量の低減効果を計測したところ、丸太は処理前に3530cpmの表面線量が樹皮剥離後に29cpm（99・2%減）に、製材品は切削前に3162cpmの表面線量が切削厚0・5mmで平均62cpm（98・0%減）に極小化したことも明らかになった。

丸太や製材品については現在までのところ安全性の基準がなく、製材工場がそれぞれに自主検査をし安全性を証明しているのが実情だ。

林野庁では3次補正予算で当面の指標値と検査方法の制定に向けた調査費用を計上したが、汚染砕石問題で風評被害が広がる恐れがあることから、県木連では暫定措置として業界で自主基準値と検査方法を制定する方向で有識者を交えた検討に入っている。現在検討中の県産材の証明制度

あることから、県木連では暫定措置として業界で自主基準値と検査方法を制定する方向で有識者を交えた検討に入っている。現在検討中の県産材の証明制度

に一括して盛り込む考えで、県木連の地区組合に放射線測定器と検査員を配置し、要望に応じて検査する案で調整している。

